

教科等	授業改善の視点	児童の学習状況	改善の計画と評価の方法
国語	①言語活動の充実「考え」「書く」活動の推進【学校経営方針】 ②学びを深めるための「他者との対話」の充実【校内研究】	①「都の学力調査」では、「分かりやすい表現になるように書き直しをする」項目で「当てはまらない」と回答した児童が7.2%いる。また、「メモを取りながら話を聞く」に否定的回答をした児童が半数を超えている。 ②「都の学力調査」で、「考えや理解したことを他の人に説明する」項目で否定的回答した児童が都平均より3%多い。	①ノートやワークシートに記述したものを自分で見直す際に、見直しの観点を板書や掲示物で残しておく。アンケートで否定的回答が30%を下回るように、調べたことや友達の意見をノートやメモ用紙に残す言語活動を定期的実践する。 ②ペアでお互いの思いや考えを説明し合う時間を授業の中で設ける。「どちらかといえば当てはまらない」のポイント数が30%台と高いので、20%台に減らすために、話すことが苦手な児童については、メモを見せる、ハンドサインを使うなど、方法を複数提示して選択できるようにする。
社会	①学ぶ楽しさを実感させる授業、個に応じた指導の充実【学校経営方針】 ②資料提示の工夫【校内研究】	①学習内容が自分の生活とつながっている実感が弱く、学習した知識が授業後に定着しておらず、自分の生活に生かそうとする意欲が低い。 ②社会的事象の課題を知る段階では意欲が高いが、調べる段階になると追究意欲が低下する。	①教科書の内容に加えて自分たちが住む地域の情報も取り入れたり ICT 活用資料やワークシート等の補助資料を活用したりして、知識が習得できるよう繰り返し学習する。また、学習内容と生活をつなげ、社会的事象を自分事として捉えられるようにする。 ②教科書や資料集に加え ICT を活用しながら課題に見合った資料を提示し、情報を集めやすくする。
算数	①東京ベーシックドリルの確実な実施と活用【学校経営方針】 ②考えや気付きを式や図、グラフ等を活用しながら伝える活動の充実【校内研究】	①診断テストの平均正答率は60.9%から76.8%と15.9ポイント上昇していることから、着実に身に付いていることが分かる。平均正答率が7割を超えているが個人の差は大きいと考えられる。 ②「都の学力調査」で、「算数で学習した言葉を使って自分の考え方を説明している」という質問では、否定的回答が30.9%となり、都の平均を上回っている。	①ベーシックドリルを朝学習や家庭学習、補充学習の時間を使って実施し、既習事項の定着を図ることができるように計画的に進める。 ②数直線や図、グラフを自分で書くことができるよう、ワークシートなどを用いて繰り返し行う。また、立てた式の理由について数直線や図を用いて説明する時間を設ける。
理科	①教科担任制による「わかる」授業の充実【学校経営方針】 ②具体的な活動や体験の充実【校内研究】	①テストの平均点は「知識・技能」が89点、「思考・表現」が84点と「思考・表現」が低くなっている。また、実験の結果から考察するのが苦手な児童が多い。 ②生き物や植物に興味関心を持っている児童が多い。授業アンケート項目「すすんで学習している」に対して「とてもそう思う」「そう思う」と回答した児童は9割で、意欲的に取り組んでいる。	①実験の結果から考察する活動では、友達と意見交流する活動を取り入れ、自分の考えを深められるようにする。また、自力解決が難しい児童には、 <u>話型を示すなどの手だてを用いて自分で考察できるようにする。</u> ②実験や、植物をはじめとする様々な自然事象を実際に扱うことによって児童の意欲が高めるために <u>実験・観察の体験を積み重ねていく。</u>
音楽	①めあてと振り返りのある「分かる」授業の充実【学校経営方針】 ②視点を明確にした丁寧な振り返り【校内研究】	①アンケート項目「授業中、すすんで学習している」に対して「とてもそう思う」「そう思う」と回答した児童は約90%であり、児童が主体的に授業へ参加していると思われるが、残りの10%の児童に対してのアプローチをさらに改善し、全体的な授業改善を必要とする。 ②アンケート項目「授業は分かりやすい」では、約90%の児童が「とてもそう思う」「そう思う」と回答しているが、実技などの個人差のある学習もあることから、個人のレベルをさらに引き上げ、「できた」を実感する学習が必要である	①この数年コロナ禍で、歌唱、吹奏楽器への取り組みが減ったため、苦手意識が強く目立つことから、 <u>全体のバランスを見ながらも個人へのアプローチを充実させた授業作りを行う。</u> また、細かく指導をくぎり、「できた」「わかった」を積み重ねた授業を行う。 ②今年度の学習発表会を目標に、全体で演奏する楽しさを味わわせるとともに、周りの友だちと協力しあい、積極的に取り組めるようにする。 <u>具体的には自分が演奏していない時間はほかの楽器の演奏を聴き、自分がその音楽の一員だということを意識させることで、自分の演奏をする時の振り返りにつなげる。</u>

<p>図画 工作</p>	<p>①児童が「自分（たち）の学習を自分（たち）でつくる」授業の充実【学校経営方針】 ②学びを深める「他者との対話」の充実【校内研究】</p>	<p>①校内実施の「1学期授業アンケート」では、「授業中、すすんで学習している」という質問項目に対して「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的な回答をした児童が93%であった。このことからほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。 ②製作活動中や製作後に互いの作品を鑑賞し合い、よさを見付けたり自分の表現に生かしたりすることができている。一方で互いに相談しながら自分たちで問題解決を行うことについては十分とは言えない。</p>	<p>①針金や電動糸のこぎりなど、新しい材料や用具についての経験を充実させ、児童が表し方や材料を自ら考えたり決定したりすることができるようにすることで、「すすんで学習している」という質問項目に対して95%以上の肯定的な回答を得られるようにしていく。 ②作品完成後だけでなく、製作活動中であっても互いの作品を鑑賞したり互いに相談し合ったりしながら問題解決ができるように授業を展開していく。単元末の児童の振り返りなどから授業者の授業改善を振り返る。</p>
<p>体育</p>	<p>①運動の日常化、体育的活動の充実【学校経営方針】 ②ふり返り活動の充実【校内研究】</p>	<p>①アンケート項目「すすんで学習している」に対して「とてもそう思う」と回答した児童は5割であり、運動の日常化を図るためにはさらに意欲を高める必要がある。 ②アンケート項目「授業は分かりやすい」に対して「とてもそう思う」と回答した児童は約5割であり、めあての達成に向けて必要な運動の理解や自分の動きを振り返る学習をさらに充実させて、児童が「分かった」と実感する学習を重ねる必要がある。</p>	<p>①主運動につながる運動を、授業の最初に行うことで家庭や休み時間にできる取組の理解の定着を図り、継続して運動をしていきたいという意欲を引き出していく。 ②自分や友達との運動について、ワークシートや学習資料、ICTを活用して学習のめあてに対する成果や課題を捉えたり改善したりすることができるようにし、2学期以降の授業アンケートの同項目に対する「とてもそう思う」回答のポイントの上昇を目指す。</p>
<p>家庭</p>	<p>①学ぶ楽しさを実感させる授業、個に応じた指導の充実【学校経営方針】 ②学びを深める「他者との対話」【校内研究】</p>	<p>①校内授業アンケートでは、3項目が「とてもそう思う」が6割以上。残り1項目が56%だった。「そう思う」を加えると、ほぼ9割となる。はじめてのソーイング。2度の調理実習をしたことで家庭科への期待値が実感できたのではないと思われる。 ②感染対策から、グループでの話し合いができず質問に対して挙手をして答える授業形態であった。そのため2/3位の児童は対話による学びの深めができなかった。</p>	<p>①1学期に引き続き、工夫をして実習活動ができるようにする。はじめてのミシンの学習では、地域ボランティアさんのお力もお借りして、個々の実力に応じた指導を行う。 ②1学期に培った児童との人間関係を生かして、挙手しない児童への発問にも取り組んでみる。ワークシートやふり返りシートを活用して発言の少ない児童の学びも深めていく努力をする。</p>
<p>外国語</p>	<p>①言語活動の充実「考え」「書く」活動の推進【学校経営方針】 ②意見を示させ、共有させる工夫【校内研究】</p>	<p>①定型文だけでなく「like」や「want」等を用い文章を追加して自分の考えを伝えたり書いたりできる児童が学年の半数程度いる。アルファベットの練習や小テストを繰り返し行い書く力が伸びたが、十分な習熟が見られない児童も若干名いるため、継続した指導が必要である。 ②教員やALTからの既習の質問には答えられる児童が大多数であるが、友達に対して自分の考えを述べたりすることには難しさを感じる児童が若干いることが、アンケートの「授業はわかりやすい」という質問に否定的な数字が10%であることから分かる。英語で自分の考えを増やす語彙や表現を増やし、自信を付けていくことが必要である。</p>	<p>①「書く」活動の前段階である「読む」活動を充足させるため、ふさわしい単語を選ぶ活動を単語カードやICTを用いて毎週行っていく。アルファベットに関しても定期的に小テスト等を用いて定着を図る。 ②高学年において英語で自分の意見を示し共有させるために、まず多くの英語を聞き、話す活動の充実を図る。そのために学習者用デジタル教科書を用いて、児童それぞれに必要な量や速さで英語に触れさせる期間を増やす。また、授業の初めに繰り返しsmall talkを取り入れて英語で尋ねたり答えたりする経験を増やしたり、教科書に用いられている定型の話型の他に、会話を成立させるためのリアクション等も学ばせたりして、児童が使える語彙や表現を増やす。</p>
<p>道徳</p>	<p>①主体的に自己を見つめ、考えを深める授業の充実【学校経営方針】 ②多様な視点での気づき、ふり返り活動の充実～良さ・変化・生き方～【校内研究】</p>	<p>①場面や登場人物の様子に寄り添うことができる一方、自分の意見を表現し、道徳的価値をさらに高めていくことに苦手意識がある。 ②道徳の授業の中で考えたことと、学校生活の過ごし方を結び付けることが苦手であり、道徳的価値を自分の生活でも実現しようとする道徳的実践意欲を高めることが課題である。</p>	<p>①ペアなど、小集団による対話や考えの共有の時間を多く取り入れ、授業の中で自分の考えを表現する機会を設ける。 ②全教育活動全体を通じて道徳性を養えるよう、日々の学校生活の中で声をかけ、学校生活に生かした姿が見られたときは、褒め、学級や学年で紹介していく。</p>